

浦戸中学校が加わり  
市内すべての中学校で実施



## 関わるすべての人があたたかい気持ちに 赤ちゃんふれあい交流事業

### 「赤ちゃんふれあい交流事業」って？

以下の3つを目的に、平成20年からスタートした事業です。

- ①市内の中学3年生が赤ちゃんとおふれあうことで「命の尊さ」や「親の愛情」に気づき、自分の存在について考え、親との関係を見つめ直しつつ、“ありのままの自分でもいい”という「自己肯定感」を高める。
- ②妊娠・出産・性感染症などの知識を深め、自分の命や性を大切にしたい考え方が大事なことに気づく機会とする。
- ③さまざまな協力者やボランティアがこの事業に参加することで、子育てに対する理解を深め、子育て世代にあたたかい地域づくりの一助とする。



### どんな内容なの？

「赤ちゃんふれあい体験」と「医師講話」の2本立てになっています。

赤ちゃんふれあい体験は、赤ちゃんを抱っこしてみる「赤ちゃんふれあいコーナー」・育児中の父母の気持ちを聞く「妊婦＆パパの出番コーナー」・赤ちゃんの人形をお風呂に入れてみる「育児コーナー」の3カ所を体験しました。

医師講話では、産婦人科医師 船山由有子先生(坂総合病院)から「未来を担う君たちへのメッセージ」と題し、妊娠・出産のしくみ・思春期のこころとからだの変化や性感染症などについて話を聞きました。

### 10年分のアンケートから見たこと

性感染症に対する知識について、各項目の事前アンケートと事後アンケートを比較した伸び率が一番高くなっており、医師講話による性教育の効果があることが分かりました。

また、親が子を育てることについて、「ありがたい」「素晴らしい」と答えた生徒が全体の7割以上を占め、親に感謝の気持ちをもつ生徒が増える結果となりました。

この事業は思春期の多感な時期に大切な知識を得るとともに、親との関係や自分自身の将来のことを考える機会となっていることが分かりました。



### ふれあいを通して (参加者の声より)

- ▶「自分も大切に育てられてきたことや、親の大変さを知り、親への感謝の気持ちでいっぱいです。」(中学生)
- ▶「性感染症についてすごく知識が高まり、自分の身は自分で守ろうと思いました。」(中学生)
- ▶「子育てで大変なこともあるけど頑張るパワーをもらえました。」(ママ)
- ▶「中学生の素直な気持ちにふれあえてよかったです。」(妊婦さん)
- ▶「自分にとってもたくさん学びを得られる体験でした。」(パパ)
- ▶「彼らの帰りの笑顔を見て心豊かになりました。」(ボランティア)

この事業は、関わるすべての人が、お互いにあたたかい気持ちになり、子育てに優しいまちになるきっかけづくりになっています。

問 保健センター ☎364-4786